政権与党のパイプを活かし補正予算をリード



１１月２８日に国より令和７年度補正予算（第１号）の概要が示されました。これには、市民生活、市内経済に直結する項目も多く、市民、事業者にとり、早急な支援が求められています。

本間ケンジロウは、片山さつき財務大臣より直接、助言を受け、すぐに市財政局と調整を行い、対応を協議致しました。そして、１２月の定例会での自民党代表質問に最新の情報などを盛り込み、「国会審議と並行して本市の実情に合わせた支援メニューのとりまとめを行うこと」「速やかに支援が行き渡るよう手続きの簡素化なども検討すること」を求め、リーダーシップを取り、政権政党の会派としての対応をも牽引しています。

そうした中で、国からいち早く支給予定額等が示された「物価高対応子育て応援手当」については、今定例会終盤に追加議案として上程され、速やかな審議の末、可決致しました。

一方で、子育て層以外の市民、事業者への支援も必要であり、考え方を問うたところ「国の補正予算を活用して、物価高騰の影響を受ける市民や事業者の方々を積極的に支援したい」との答弁がありました。

引き続き、政権与党のパイプを活かし、国の動向を市行政と共有しながら、物価高騰から市民生活を守り、暮らしを豊かにする経済の好循環を生み出すべく施策の充実に取り組みます。



ツナジロウのひとこと

物価高。だからこそ、支援はスピードが大事。
市民の暮らしを守るため、すぐ動く。

『未来へ働き続ける、想いを「ツナ」ぐ。』イメージキャラクター：本マグロ ツナジロウ